課題テーマ①（新潟県①）

豪雪地域の雪害防止（民家の除排雪）について

現状と課題

- 日本海からの湿った風が山にぶつかる「山雪型」により、平野部でも重く湿った雪が大量に降るのが特徴。特に十日町市などの魚沼・頸城地方は世界有数の豪雪地帯で積雪２ｍを超える。
- 毎年、**雪による死傷者が多数発生し**ており、死亡につながる**重大な事故は65歳以上**の割合が高い。

年間累計降雪量(県内５地点平均)・死傷者数・65歳以上割合

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7
年間累計降雪量(5地点※平均)	612cm	535cm	413cm	343cm	513cm	463cm
死者数(人)	21	17	16	8	17	25
重傷者数(人)	147	82	64	20	83	84
軽傷者数(人)	196	102	87	31	109	170
死傷者数(人)　計	364	201	167	59	209	279
65歳以上割合(死傷者)	61%	61%	57%	71%	64%	69%
65歳以上割合(死者)	81%	82%	63%	100%	94%	84%

※ ５地点：新発田、新潟、長岡、十日町、上越

- 家屋の損壊や倒壊の原因となる屋根雪は、家屋の所有者が処理しているが、雪下ろしは重労働であるため、**高齢者世帯を中心に自力での雪下ろしが困難**
- 高齢化等により、**集落内の地域コミュニティ**などによる雪下ろしが**難しい**地域も発生

県からの要望

【これまでの取組】

- 新潟県では、**安全な除排雪作業等の普及啓発**を実施するとともに、屋根雪を安全に除雪するため、**命綱を取り付ける器具（アンカー）の設置を推進**

安全帯、命綱、アンカーを使用した雪下ろし作業

【要望】

- **屋根雪を除雪する機械やシートなど事故防止に係る新技術の開発・普及、また、高齢者の自力での除雪や、集落での助け合いによる除雪が困難な状況下で、地域でどういった仕組み・解決策等が考えられるのか、ご提案いただきたい。**

課題テーマ②（新潟県②・東京都）

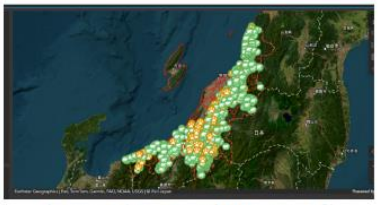
クマなどによる人身被害等の防止について

現状と課題

- 昨秋のブナは新潟県全体で凶作であり、人里近くに生育するクリ、オニグルミは並作。クマの餌であるブナが凶作の年は、出没が増加する傾向にあり、令和７年度の**出没・目撃件数は過去最多。人身被害も深刻化**
- また、平野部や市街地での出没が相次ぎ、**クマの生息域が拡大**している可能性が高い

○ クマの出没・目撃件数及び人身被害者数の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
出没・目撃件数（件）	1,957	695	599	1,450	843	3,519
人身被害者数(人)	21	1	1	10	7	17



（にいがたクマ出没マップ）

- 県内で発生した人身被害は、山菜・キノコ採り、農業・森林内作業などで、**高齢者の単独行動中の被害**が多くを占めているが、ランニング中など**市街地で被害**にあうケースも増加
- クマの出没状況は冬眠明け直後から非常に活発であり、３月下旬から４月上旬にかけて県内各地で子グマを含む目撃情報が相次いでいる。
- 東京都内でも、クマの目撃情報が増加。これまでにない市街地での出没や山林での人身被害が発生

自治体からの要望

【これまでの取組】

- 新潟県では、クマによる被害を防止するため、猟友会等による捕獲や緩衝帯の整備、県民への注意喚起等、総合的な取組を行っているが、**県民に取組を更に浸透**させ、また、**生活圏に出没するクマの生態を把握する**必要がある。
- 東京都では、「ＴＯＫＹＯくまっぷ」による出没情報の提供、電気柵や監視カメラの設置支援、猟友会との連携による巡回等を実施

【要望】

- **クマに対する正しい知識の普及やその仕組みづくり、クマ捕獲の新たな担い手確保に向けたイベントや仕組みづくりを提案いただきたい。**
- **人里付近に出没するクマの行動や生態を把握する方法、緩衝帯を効果的かつ効率的に設置する手法、安価で省力的なクマを寄せ付けない方法や追い払う方法を提案いただきたい。**

課題テーマ③（山形県・秋田県）

持続可能で生産性の高い農業について

現状と課題

- 山形県の農業経営体は大規模化が進む一方、担い手の高齢化等により経営体数は減少
- 新規就農者や経営力のある高度な人材等の育成・確保を支援しつつ一層の農地の集積・集約化、生産性向上のため、**水田農業の低コスト化**・省力化が必要

- 秋田県内の**中山間地域**は、県の**総土地面積の約８割、経営耕地面積では約４割**を占めており、**人口の約４割、総農家戸数では約５割**となっている。
- **農業産出額では全体の約半分を中山間地域**が占め、県内農業にとって重要な位置付けとなっている一方、65歳以上の**高齢化率は、全県平均より高く**なっている。
- 中山間地域は、**狭あいな農地**が多く作業効率が低い。また、経営規模の小さな農家が多い。高齢化や人口減少が著しく収益性も低いことから**離農や人口流出**が続き、**農地や集落の消滅の危機**

県からの要望

【これまでの取組】

- 山形県も農地の大規模化に伴い、**人工衛星データを活用した米の育成**や、夏場の**高温に強い新品種「ゆきまんてん」の開発**などに取り組んでいる。
- 秋田県では、**人口減少下でも地域が存続し住み続けられる未来**を目指して、**「ひと」に着目した施策**を展開しており、主体的に活動する人材の育成、地域資源を生かしたビジネス創出、関係人口の拡大等に取り組んでいる。

【要望】

- **人口減少下で持続可能な米づくりを進めていくためには、更なる作業の自動化（遠隔操作）や、水田の集約化が必要。農業従事者が一人で管理できる田の面積は10～15haが限界と言われている。その限界を超えるような提案をいただきたい。**
- **具体的な手法や幅広い視点での解決策など、皆様のご提案をお願いしたい。**